とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1部70円1カ月200円　1カ年前納2,000円

新人十三名が登場

足寄町議選への顔ぶれ

あと百日余に迫った足寄町議選に向って出馬の顔ぶれは一、二名を除いてほとんど決定的となりましたが地域別にその動きを紹介してみますと—。

市街地区　有権者の六五%を占める大票田でありながら前回は十名立起して八名当選—本別は定員二十二名のうち市街から十三名、陸別でも定員十八名のうち市街で十二名を獲得していずれも過半数を制しているのに、足寄は定員の三分の一も市街から出ていないことで—こんどは十二、三名の立起なので、果してその歩どまりは—。

◎東区　商工会専務の高橋佳夫氏ただ一人に。四選をめざすものとみられていた新沼芳雄氏は勇退して高橋氏の後援会長に。

◎西区　久保田庄太郎氏が四選目たいして、西区振興会の推薦で大川義夫氏

◎南区　同じく四選目の加藤伊三郎氏は未定。斉藤昇氏は五期目で勇退して石田富男氏の後援会長。

前寺忠三郎氏と公明党の板谷捷平氏がともに出馬

◎北区　五十里信夫氏が町内から推されて立起。

◎中央区　六選目の湯浅義雄氏と五選目の矢野寛一氏のベテランに、前回わずか四票で次点だった両角章氏と高本修司氏。

◎旭町　八期連続当選の多田梅松氏に替って大塚正夫氏の登場。

◎下愛冠　道議選出馬を断念した大野耕太郎氏の三選に農民同盟事務局長の本谷重蔵氏。

東部地区

◎足寄　宮川孫市氏は六期目で勇退。香川博彦氏は四選をめざす。

◎中足寄　西村彦三郎氏の勇退により、二十二日に地区で高橋幸雄氏を推薦

◎稲牛　佐々木政一氏の五選にまとまる。

◎ラワン　青木収氏と阿部俊夫氏の三選へ。

◎上足寄　鷲足賢氏は二選　山内勝治氏は四期目で勇退して、あとがまに農民同盟委員長の畠正吉氏。

沿線地区

◎下足寄　斉藤祐一氏の三選立起。

◎愛冠　神本三也氏の四選

◎鷲府　大久保繁氏が五選をめざす。

◎上利別　鳴海一郎氏の四選へ。

◎塩幌　高橋募氏の二選。

◎白糸　遠山謙氏の四選。

◎大誉地　二十四日に市街地区は横田文治氏の二選推薦を決定。農村地区は多治見敬一氏に。

西部地区

◎中矢　大滝弥助氏の六選

◎芽登　吉田吉之助氏の六選と大浦武夫氏の二選。大浦晃氏も立起の態勢。

以上のとおりで、現議員で勇退するのは多田、宮川、斉藤、山内、新沼、西村の六氏で、再出馬は二十名の見込みで、新人は十三名の登場となり、結局は三十二名か三十三名の立起になりそうです。

主筆の室

満二十週年を迎えて

昭和二十九年に「とかち新聞」を発刊したのですから、どうにか満二十週年の〃成人〃となりました。

これもひとえに愛読者のみなさまのご支援のたまものと厚くお礼申しあげます。

なにしろひとりで取材をして活字をひろつて印刷をしておとどけする全くの手づくりの新聞でありますので、なにかと至らない小新聞ではありますが、それだけに自由な立場で自分の作品としてつくりあげております。

新聞はもともとその時代の権力に追随し迎合するのではなく、現状に満足せずにこれを批判しつつ将来展望に立って前進をはかるところに役割があります。

官報や道公報や町広報や政党機関紙などのようにひとつのワクのなかにはめられたものでなく、そうかといって商業主義的に巨大企業化した新聞でなく、その地域々に定着した身近なローカル新聞なりの役割もありますが、それはあくまでもそのマチの正義派の代弁者でなければなりません。

身近なできごとをとりあげるだけに、それが事実であっても批判された当人は大新聞なら抵抗しないが小新聞には文句をつけるという差別扱いもありますが、小なりといえどもそれぞれのマチを明るく住みよくするためにガンバッていきたいと思います。

我妻氏をたたえて

叙勲祝賀会

昭和八年から現在まで四十一年間にわたって足寄町において避地医療ひと筋につくした我妻茂治氏(75)の秋の生存者叙勲（勲五等双光旭日章）にたいして小林町長、大滝議長、新津教育委員長、新沼商工会長、三宅社会福祉協議会長が発起人となって、我妻氏の功績をたたえての祝賀会が二十一日午後一時すぎから公民館大ホールに町内外の有志二百名があつまってひらき、岡教育長の司会によって新津教育委員長から発起人代表のあいさつがあって、木村教育次長から我妻氏の功績紹介があり、つづいて小林町長、友人代表の川村重雄氏、大滝議長、佐藤十勝医師会長、元村長の藤村与作氏、陸別町長代理の池田収入役、安久津足寄ロータリークラブ代表、加藤体育協会長、三宅社協会長からそれぞれ祝辞が述べられ我妻氏夫妻に花束と記念品を贈呈したあと、我妻氏から謝辞（写真）があって斉藤副議長の乾杯発声で祝宴に入り新沼商工会長の音頭による万才三唱で午後三時に閉会しました。

我妻氏は福島県の出身で大正十四年に東京医学専門学校を卒業してただちに釧路市立病院で勤務、昭和三年から尺別炭鉱病院で勤務後、昭和八年に当時無医村の足寄町で開業いらい、町の嘱託医、学校医、国保運営委員、町議、スポーツ振興審議会長をつとめ、現在でもこのほか柔道連盟会長スポーツ少年団本部長として青少年の指導にあたっており、町の嘱託医、学校医としても活躍中です。十勝管内の医師のなかでの叙勲ははじめてで、我妻氏はこれを記念して町の福祉事業に三十万円、老人クラブに十万円、参会者全員に金盃をおくりました。

新年もよろしくお願い申しあげます

新柄婚礼衣裳
きものと帯は
㊇久保呉服店
足寄町　T二一四八

独居老人の終末

「一人暮しの老人凍死」との見出しで足寄町南芽登の宮田留五郎さん(75)の死亡が各新聞に報道され、町役場はどうしているのか、老人奉仕員はまわっていないのか—などの声もありますが、故人は大酒飲みでわがままで家族と折り合いが悪く一人ぐらしなので、三宅民生委員総務、野中芽登支所長、藤村福祉係長らが説得して十月に本別町の老人ホームに入ってもらったものの、自由に酒が飲めないので一週間で退所したので寝たきり老人ではないので奉仕員は毎週一回の訪問となるので町では特に福祉電話をとりつけて朝夕安否を確かめていたものですが、二十四日は奉仕員の訪問日でなにごともなかったのにその夜大酒を飲んで深夜になって水を飲みにおき出して素裸かのまま倒れていたとのことで、なんとも悲しい独居老人の終末となったものです。

賀正　一九七五年

足寄町

役職	氏名
町長	小林弘道
助役	富田秋雄
収入役	加藤芳弘
総務課長	鷲岡憲雄
企画課長	谷忠光
税務課長	別宮進
民生課長	松平京
農政課長	原守郎
林務課長	品川昭夫
商工観光課長	土田三郎
建設課長	丸谷彰
水道課長	小泉鶴夫
芽登支所長	野中竹男
大規模草地育成牧場長	石井格

足寄町議会

役職	氏名
議長	大滝弥助
副議長	斎藤昇
総務委員長	遠山謙
産業経済委員長	吉田吉之助
建設委員長	鳴海一郎
文教厚生委員長	新沼芳雄
事務局長	山本豊吉

足寄町教育委員会

委員長　新津幸助　教育長　岡靖
職務代理　前谷信正　同次長　木村重雄
委員　新妻幸雄
同　新海文雄
足寄町社会教育委員会　委員長　鷲岡俊昭
足寄町公民館運営審議会　会長　神本三家雄
足寄町スポーツ振興審議会　会長　我妻茂治
十勝オンネトー青年の家組合長　小林弘道
同　所長　岡靖
足寄町学校給食センター　所長　斎藤恒次郎

足寄町農業委員会

会長　清水秀雄
会長代理　畠正吉
事務局長　山岡信一

足寄町選挙管理委員会

委員長　鷲岡俊昭

足寄町監査委員会

代表監査委員　森西勝夫
監査委員　神本三也

足寄町国民健康保険病院

役職	氏名
院長	加賀谷秀夫
副院長	向醇
内科医長	柏木道彦
医員	向幸恵
事務長	喜多一男
同次長	横山三郎

足寄町社会福祉協議会長　三宅隆義
共同募金会足寄分会長　長田栄
足寄町遺族会長　工藤勇作
足寄町母子会長　桂さよ子
身障会足寄町分会長　服部貞吉
日本赤十社足寄分会長　小林弘道
本別保護司会足寄分区会長　近藤悦朗
足寄町老人グラブ連合会長　土田今吉
足寄町民生委員協議会総務　三宅隆義
各事務局長　松平京　同次長　藤村淳